

令和2年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告
(交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

資料2
令和3年度第1回逗子市まち・ひと・しごと
創生総合戦略等推進会議
2021年(令和3年)8月5日

No	① 交付対象事業の名称	② 総合戦略における位置付け	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値			⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		⑧ 事業実施から得られたノウハウ等
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値 (三浦半島4市1町)	実績値 (逗子市)	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	三浦半島魅力深化プロジェクト推進事業	基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育て」の希望をかなえる 基本目標2「逗子市への新しいひとの流れをつくる」 基本目標3「逗子市に暮らしながら「しごと」の希望をかなえる」 基本目標4「魅力的で、誰もがいつまでも安心して健康に暮らせるまちづくりを推進する」	762,318	指標① 三浦半島地域4市1町の生産年齢の社会増減数	-762	人	令和5年3月	-254人	184人	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	「交流人口の増加に寄与する取組みの充実」「地域産業の活性化に資する事業の推進」「魅力的な活動あふれるまちづくりの推進」及び「自然を生かしたまちづくりの推進」に関するKPIに直接的効果を上げる要因となった。	事業の継続	交流人口の増加に効果的であるため。	別添のとおり
指標② 鎌倉市を除く3市1町の観光客消費額	28,901	百万円	令和5年3月	※未確定 (神奈川県集計中)	1,497百万円										
指標③ 県民ニーズ調査における「現在のところに住み続けたい」と思う人の三浦半島地域の割合	70	%	令和5年3月	71.9%	—										
指標④ 事業を通じたイベント参加者数	153,000	人	令和5年3月	164,378人	289人										
指標⑤															

■表の見方

⑤「本事業終了後における実績値」＜事業効果＞選択肢

- ・地方創生に非常に効果的であった (指標が目標値を上回った場合)
- ・地方創生に相当程度効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの目標値を相当程度(7~8割)達成した場合)
- ・地方創生に効果があった (目標値を上回ることにはなかったものの事業開始前よりも改善したなどの場合)
- ・地方創生に対して効果がなかった (実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合)

⑦「実績値を踏まえた事業の今後について」＜今後の方針＞選択肢

- ・追加等更に発展させる (事業が効果的であったことから取組みの追加等さらに発展させる)
- ・事業内容の見直し(改善) (事業内容の見直しを行う(または、行った。))
- ・事業の継続 (特に見直しをせず事業を継続する)
- ・事業の中止 (継続的な事業実施を予定していたが中止した)
- ・予定通り事業終了 (当初予定通り事業を終了した)

■確認いただく内容

⑥「外部有識者からの評価」＜事業の評価＞選択肢

- ・総合戦略のKPI達成に有効であった
- ・総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

＜外部有識者からの意見＞

記載内容例:事業の良かった点が何か 等
総合戦略において当該事業が位置付けられている具体的施策に関するKPIに直接的効果を上げる要因となったことを記載。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	テレワークの推進
担当課	企画課
実績	<p><ワーケーションウェビナーの開催> 開催日時：2021年（令和3年）3月23日（火）14時から16時 当日参加者数：58名（法人27名、大学等研究機関1名、個人18名、その他1名、照合不明11件）</p>
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインウェビナーの企画の立案方法及び実施方法 ・市内ワークスペース等との連携方法 ・逗子でのワーケーションの認知度やこれからの課題
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインウェビナーの主催が初めてのことであり、企画から実施方法についてノウハウを得られた。 ・慶應義塾大学 SFC 研究所「仕事とウェルビーイングコンシウム」及び湘南みらい都市機構研究所「仕事とウェルビーイングコンシウム」と共催での実施により、ワーケーションを学術的な切り口からも伝えることができた。 ・慶應義塾大学島津教授による「ワーケーションの科学的検証」は、実際数字で根拠を見ことで、ワーケーションの効果、社員・個人に与える影響がどの程度あるのかを分かりやすく知る事ができたという感想をいただいている。 ・実際に逗子でワーケーションした方のパネルトークがあり、本市の課題も的確に言っていただけ課題を抽出できた。 ・当ウェビナーが参加者にとってワーケーションに対し前向きに考えるきっかけになった。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	企業誘致・起業促進事業
担当課	企画課
実績	<p><第1回> テーマ：「女性のための就業に関する講演会」～自身の強みと弱みを認識し、逗子市で再び自分らしく働きたいと思うきっかけづくり～ 参加人数：受講者14名（託児7名）</p> <p><第2回> テーマ：「女性のための就業に関する講演会&企業説明会」～仕事に関して理解を深め、学ぶ意欲とチャレンジの後押しする～ 参加人数：受講者15名（託児6名）</p>
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の立案方法及び実施方法 ・地域事業者との連携方法
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚、出産、子育てを機に仕事から離れた女性を対象に「新たな働き方セミナー」を開催し、実施方法等についてノウハウが得られた。 ・子育て中の女性も育児と仕事が両立できる環境を求めており、企業とマッチングすることにより、より具体的な行動へ移すことができ、マッチングのノウハウが得られた。また、市内にも子育て中の女性を活用したいと思っている事業者がおり、連携した取り組みが実施できた。 ・お子様と一緒に参加できるセミナーとして託児スペースを設け実施をしたことにより、参加のハードルを下げることができ、託児スペースを設けたセミナーの開催方法（適切な広さ、預かるお子様の人数、保育スタッフの人数等）のノウハウが得られた。 ・セミナーに参加したことにより働くハードルが低くなり、自分にできることから取り組んでみようと思った等の前向きな声があった。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	マリンスポーツによる地域ブランディング事業
担当課	文化スポーツ課
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアウインドサーフィン教室 5回実施、延べ68人参加（前年度比1人減） ・ジュニアヨット教室（新型コロナウイルスの影響により中止）
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の立案方法及び実施方法 ・地域団体との連携（マリンスポーツ団体、事業者等）
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運を高めるため、ジュニアウインドサーフィン教室を開催し、マリンスポーツの普及を図ったことにより、ジュニアを対象とした事業の実施方法についてノウハウを得られた。 ・海に面し、マリンスポーツを身近に楽しめる逗子市の魅力を発信する機会に繋がっている。 ・感染対策を講じつつ、指導の質を落とさずに安全に実施する手法を得られた。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	逗子海岸保全活用事業
担当課	経済観光課
実績	2020年度 ワッシュョイ！ずしかいがん 3企画96人 「海で働く人々講演会51人」「ビーチクリーン&海のマイクロプラスチック29人」「春休み海遊び16人」
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や事業者と連携した企画立案、実施運営 ・新型コロナウイルス感染症流行下における新しい生活様式への対応
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ワッシュョイ！ずしかいがんサマーフェスティバル・安全教室、逗子海岸ウォーターパーク、NIGHT WAVE、うみそらマルシェは企画したが、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う緊急事態宣言発出を受け、中止とした。 ・中止となった企画が多い中、新しい生活様式に即したイベントの実施方法を事務局のみならず、関係団体等と意見交換を重ね、対策を検討して実施できたことは、コロナ禍で一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・講演会や海のマイクロプラスチックイベントでは、持続可能な環境を維持しながら、逗子海岸に親しみ、将来にわたって発展させていくことをテーマに、SDG s の考え方も取り入れて、連携する関係団体のつながりのある専門家を招いて実施できた。結果、参加した市民が自分事として逗子らしいビーチを守り育て、魅力を伝えていこうという意識を生み、また地域に根付いた専門家との交流を持てたことで、継続して取り組んでいくためのつながりとノウハウが蓄積されたものと考えている。

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告 ⑧事業実施から得られたノウハウ等について

事業名	逗子の魅力向上事業
担当課	経済観光課
実績	2020年度 逗子の魅力を探してウォーキング14人、逗子の山で遊ぼう24人、逗子旅カレンダーフォトコンテスト
蓄積されたノウハウの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や事業者と連携した企画立案、実施運営 ・新型コロナウイルス感染症流行下における新しい生活様式への対応
事業実施から得られたノウハウ等	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に即したイベントの実施方法を事務局のみならず、関係団体等と意見交換を重ね、対策を検討して実施できたことは、コロナ禍で一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・ウォーキングや山で遊ぼう企画では、市民団体連携のもと、逗子海岸以外の魅力を発掘し、体感してもらうものとして実施し、ウォーキングでは大人向け、遊ぼう企画では子ども向けに実施できたことは、新たな魅力を引き出し、一定の効果をあげることができる手法を蓄積できたと考えている。 ・逗子旅カレンダーフォトコンテストは、観光協会と市の共催で実施し、感染症流行下において、市外からの来訪を促すことが難しい中、市が逗子の魅力を市民を中心とした参加者から写真を募り、協会がカレンダーとしてまとめ発行し、販売また市内加盟店へ配付することができた。結果、協会と市の強みを持ち寄った連携が構築され、市民がフォトコンテストに参加することで逗子の魅力を再発見してもらうことに寄与し、また応募された作品をウェブ上（逗子フォト）で発信することで新たな逗子の魅力を伝えることができるなど、まさに市民発の、参加しやすい魅力発信の実践となったと考えている。